

6 シーリング材



6-1 シーリング材の適否

- 目地に水密性、気密性を確保させるため、ALC パネル相互間および ALC パネルと他部材との取合い部にはシーリング材を充てんしてください。
- パネル間のシーリング材選定の目安は下表の通りです。

シーリング材の種類 シーリング面での外装仕上げの有無			耐久性区分 (JISA5758)				
			7020	8020			9030
			アクリル系	ポリウレタン系一成分形	ポリウレタン系二成分形	変成シリコン系一成分形 <small>注5</small>	変成シリコン系二成分形
縦壁	HDR 構法 ロックンウォール	吹付け <small>注1</small>	△ <small>注2</small>	○	○	△	△
		なし	×	△ <small>注3</small>	×	○	○
		タイル張り	×	○ <small>注4</small>	○	○ <small>注4</small>	○
横壁	HDR 構法	吹付け <small>注1</small>	△ <small>注2</small>	○	○	△	△
		なし	×	△ <small>注3</small>	×	○	○
		タイル張り	×	○ <small>注4</small>	○	○ <small>注4</small>	○

○: 適 △: 事前検討要 ×: 不適

● シーリング材は標準状態で 50% 引張応力の値が 0.3N/mm² 以下の、モデュラスの低いタイプのものを使用してください。

注1 塗装性について事前確認をすることが必要です。

注2 経時で硬くなり、柔軟性が低下するものもあるので事前検討が必要です。

注3 耐候性の事前確認が必要です。

注4 目地棒を設置する場合（別途工事）では不適です。

注5 変成シリコン系一成分形をタイル張りに使用する場合の耐久性区分は 9030 とします。

※ 住宅瑕疵担保責任保険の加入条件は、シーリング材の耐久性区分が 8020 以上とされており、7020 であるアクリル系は適合しませんのでご注意ください。